

今週のことば「水」

《聖書》マルコによる福音書 1:7-11

水

水は生きていくうえで、どうしてもかかすことのできないものです。水はいろんなことに使われています。一番大切なのは飲み水です。それについて大切なのは、汚れを洗い流すことです。

水で汚れを洗い流すと言ってもいろいろです。水を飲むと、身体の中にたまっているいらぬものを外に出す働きもします。又、雨が降った後で、木の葉の色がきれいになります。これも、木の葉についた汚れを雨水が洗い流すからです。さらに、汚れた手を洗ったり、汚れた服をきれいにします。

洗礼

洗礼は、イエスの福音に答える信仰の秘跡です。教会において、私たちが神と出会う外面的なしるしとして、秘跡があります。信仰の秘跡である洗礼は、目に見えるしるしを通して、教会の一員となり、公に自ら神に従うことを宣言するのです。

人が水で洗われることは、洗礼者ヨハネの活動にも見られますが、当時の荒れ

野におけるクムラン集団においても、清めの式として行なわれていました。水で身体を洗うことは、どんな宗教でも行なわれていることであり、そこにどんな意味がこめられているかを見ることが大切です。

ヨハネによる福音書3:1-21には、イエスのニコデモとの対話という形で、洗礼の意味が説明されています。水だけでなく、霊によって新しく生れ変わることが求められています。そのために、イエスの洗礼の場面でも、洗礼者ヨハネの洗礼と区別するために、霊が鳩のような形で下ったことが述べられています。

人は洗礼によって、イエスと一つに結ばれ、神の民の一員となります。ただ、神と結ばれるだけでは足りません。自分が一人で神を信じるのなら、心の中で自分分は神に従いますと言っていればそれで済むことです。わざわざ洗礼を受けるのは、神の民である教会の一員になるためです。それによって、お互いに助け合いながら、神に従った生活ができるようになります。一緒に歩むのです。そのために、目に見えるしるしを通して信仰を表明するのです。

主の洗礼の主日B年（滝野）